書簡　大杉栄宛

（一九一六年四月三〇日　一信）

伊藤野枝

青空文庫

宛先　東京市麹町区三番町六四　第一福四萬館
発信地　千葉県夷隅郡御宿　上野屋旅館

ゆふべ、つくと直ぐに手紙を書き出しましたけれど、腰が痛んで気持が悪いので止めました。つきますと直ぐに雨が降り出して、風がひどいので外には出られません。真暗な風の強いさびしい晩でした。停車場から此処まで歩いてくるうちに、泣きたくなつて仕舞ひました。停車場の直ぐ前ときいてゐましたけれども、少し離れてゐます。海の近くです。かなり広い家です。家のまはりはあんまり感じがよくありませんが、そんなに悪くもありません。

私の今ゐる室は一番奥の中二階みたいな室です。かけ離れてゐて、宿屋にゐるやうないやな気はしませんが、そして大変仕事をするにはいい室ですが、押入れがないので他に移りたいと思つてゐます。四畳半ですから本当にいいのですけれども。今朝は私の気持がすつかりおちついてゐます。汽車の中も随分さびしうございました。千葉からは二人きりになりました。

かうやつて手紙を書いてゐますと、本当に遠くに離れてゐるのだと云ふ気がします。あなたは昨日別れるときに、ふり返りもしないで行つてお仕舞ひになつたのですね。ひどいのね。私はひとりきりになつてすつかり悄気てゐます。早くゐらつしやれませんか。それだと私はどう

したらいいのでせう。こんなに遠くに離れてゐる事が、そんなに長く出来るでせうか。お仕事の邪魔はしませんから、早くゐらして下さいね。

　こんな事を書いてゐますと、また頭が変になつて来ますから、もう止します。四時間汽車でがまんをすれば来られるのですもの、本当に来て下さいね。五日も六日も私にこんな気持を続けさせる方は——本当にひどいわ。私はひとりぼつちですからね。この手紙だつて今日のうちには着かないと思ひますと、いやになつて仕舞ひます。

［『大杉栄全集』第四巻、大杉栄全集刊行会、一九二六年九月］

青空文庫情報

底本：「定本　伊藤野枝全集　第二巻　評論・随筆・書簡1――『青鞜』の時代」學藝書林
　2000（平成12）年5月31日初版発行
底本の親本：「大杉栄全集　第四巻」大杉栄全集刊行会
　1926（大正15）年9月8日
※ルビは新仮名とする底本の扱いにそって、ルビの拗音、促音は小書きしました。
入力：酒井裕二
校正：雪森
2016年1月4日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

書簡　大杉栄宛

（一九一六年四月三〇日　一信）

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　伊藤野枝
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/